

久遠に栄ゆるわが母校



発行者
安田学園 唐花会
隔年発行
ホームページアドレス
<https://karahana.jp/>
印刷所 株式会社 Taisei



唐花会会長 山野 瑞枝
(昭和三十九年 保育科卒)

昨年は例年になく猛暑の日々が続きましたが、唐花会会員の皆様には、お変わりなくお過ごしでいらっしゃいますか。

新型コロナウイルス感染症が猛威をふるっていた三年間は、マスク生活、対面でのコミュニケーション減少等、今までの生活が一変しました。感染症対策が二類から五類に移行した事により、現在は少しずつ日常が戻りつつあります。予定の事が予定通り出来るという事は、不自由さを感じていた分だけ、とても幸せを感じる事が出来ます。

会報「からはな」は昭和五十年に安田学園六十周年の祝賀事業の一つとして創刊され、この度二十六号を無事発行する事が出来ました。前号では安東キャンパスのリニューアルの様子をお知らせしました。今号では白鳥キャンパスリニューアルが終了し、新しく生まれ変わった様子をお知らせします。



理事長 安田 馨

唐花会の皆さん、こんにちは。いつも学園に対し温かいご支援ご協力をいただき、ありがとうございます。

令和5年11月に理事長に就任いたしました。改めてよろしくお願いたします。

さて私の父、安田裕実が晩年に精力を注いだ白鳥キャンパスの全面リニューアルが、令和5年をもって完了します。アストラムラインの白鳥駅前に正門が開け、右手に小学校、左手に中学高等学校、そして正面には安田リヨウ記念講堂と、キャンパス全体が見渡せるようになりました。正門から記念講堂へ向けて水盤が配され、水面に映る青空や赤レンガの校舎は時間と共に表情を変え、キャンパス全体を彩ります。在校生以外にも多くの方から「とても綺麗なキャンパスですね」「生徒が正門で一礼される姿が見えるようになりました」といった声をいただくようになりました。

昭和六十年に学園創立七十周年行事の一つとして、白鳥キャンパスに「安田リヨウ記念館」が建築されました。安田リヨウ先生の遺影をはじめ、ゆかりの品々が常設展示されておりました。この度、白鳥キャンパスリニューアルに伴い、その「安田リヨウ記念館」を「記念館」と「唐花会館」と二つの大きな役割を果たす建物として生まれ変わる貴重な御縁をいただきました。

長年、安東キャンパスA棟に「唐花会室」として事務局を置かせていただいておりますが、令和五年四月に生まれ変わった白鳥の唐花会館へ引っ越しをしました。先人達の思い出の詰まった建物で、同窓会「唐花会」の拠点として中核になる事務局や会議室を設置しました。学園と足並みを揃えて、歴史と伝統のある「唐花会」の活動を、より一層活発に、また楽しく集える会に盛り上げていけるよう、会員皆様のご協力を心よりお願い申し上げます。

令和六年五月二十六日(日)新しくなった安田リヨウ記念講堂で、一部総会、二部アーティストによるコンサート、三部新校舎見学を計画しています。立派に生まれ変わった母校を是非ご覧になってくださいませ。役員一同、皆様にお会いするの楽しみに計画を練っております。

白鳥キャンパスのリニューアルに着工したのは平成29年ですが、それまで白鳥キャンパスは大きな建て替えがなかったことから、その景色は昭和40年代からあまり変わっていませんでした。実に50年ぶりのリニューアルであり、それは多くの児童生徒、卒業生、教職員によって学園が支えられてきたことの結晶であるとも言えます。夕方、陽が落ちてライトアップされたキャンパスに生徒が一礼をして帰る姿を見ると、ここまでよくたどり着いたものだと感慨深いものがあります。

このように完成した白鳥キャンパスを見ていると誇らしい気持ちになります。同時にこれまでの校舎の面影を思い、少し寂しさを感じることもあります。旧校舎は築年数が経っていましたから見た目は老朽化していましたが、学校を訪れる方からは「とても掃除が行き届いていて、大切に使用されている校舎ですね」とお褒めの言葉をいただくことも多くありました。

幼稚園、小学校、中学校、高等学校と、それぞれ校舎は新しくなりましたが、これからも外観の美しさだけでなく、そこに通う人たちが生み出す美しさを褒められる、そうした学園でありたいと思います。今後ともご支援ご協力の程、よろしくお願いたします。